

1 . 評 価 結 果 概 要 表

作成日 平成19年 11月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	0175900083		
法人名	社会福祉法人 清光園		
事業所名	グループホームまどか		
所在地	夕張市清水沢宮前町22番地 (電 話) 0123-59-2525		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成19年9月21日	評価確定日	平成19年11月20日

【情報提供票より】(1 9 年 8 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 1 7 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	15人, 非常勤 3人, 常勤換算 11.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 ~ 21,000 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (8 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護 1	3	要介護 2	6		
要介護 3	6	要介護 4	2		
要介護 5	1	要支援 2	0		
年齢	平均 83 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人同和会追分菊池病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所の母体法人である社会福祉法人清光園が昭和 5 0 年に特別養護老人ホームを設立し、平成 1 7 年にグループホームまどかを開設した。各ユニット中央にはセミパブリックスペースが設けられ、共用空間と居室が隣接しており利用者が過ごしやすいような造りになっている。また、廊下にはライトが取り付けられ脱衣所には固定トイレが設置されており、安全で快適に過ごせるよう配慮されている。利用者は自分のペースを保ちながらゆったりと過ごし、職員は更なる質の向上を目指して日々のケアサービスに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目：外部4)
	前回評価での課題であったベッドの介助バーの位置は変更し、ヒヤリハット処置簿に再発防止策の欄を設けるなど改善に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目：外部4) 今回管理者を含む3名で自己評価を行っており、全職員で取り組むまでには至っていない。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目：外部4, 5, 6) 事業所として運営推進会議は設置するまでには至っていない。今後、運営推進会議を設置・開催し、会議において意見交換を行い事業所の運営に反映させることが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目：外部7, 8) 重要事項説明書に内・外部の苦情相談窓口を明示している。また、職員は日常的に利用者家族とのコミュニケーションを大切にし、家族が気軽に意見・要望等を伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目：外部3) 盆踊りや花火大会などの町内会行事に参加したり、近隣住民が畑で採れた作物を持って訪問するなど、地域との交流が図られている。

２． 評 価 結 果 （ 詳 細 ）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
．理念に基づく運営					
１．理念の共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を含んだ事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時研修で理念を取り上げているが、理念の内容が具体的でないため実践するまでには至っていない。	○	今後、理念の内容を明確にし、日々のケアサービスにおいて実践することが期待される。
２．地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊りや花火大会などの町内会行事に参加したり近隣住民が事業所を訪問するなど、地域との交流が図られている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を含む３名で自己評価を行っており全職員で取り組むまでに至っておらず、評価結果を他の職員に伝えていない状況がある。	○	評価の意義・活用方法の周知徹底を図り、全職員で自己評価に取り組みケアサービスの質の向上に活かす事が期待される。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は設置されていない。	○	今後、運営推進会議を設置・開催し、活発な意見交換を行い事業所の運営に活かすことが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と密に連絡を取り信頼関係が築かれており、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に4回事業所便りを写真と併せて家族に送付し、利用者の生活の様子や健康状態を伝えている。また、毎月利用請求書とともに職員手書きによる便りを送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内・外部の苦情相談窓口を明示している。また、来訪時に職員は積極的な声かけをし、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった場合は、利用者への的確に説明して引継ぎを行い、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の採用時研修は行っている。しかし定期的に内・外部研修に参加するまでには至っていない。	○	今後、定期的に内部研修を実施したり外部研修を積極的に受講し、ケアの質の向上に取り組む事が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、近隣町村の他事業所職員との交流機会を検討中である。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者本人・家族に事業所見学をしてもらい、職員と顔馴染みになりサービス内容等に納得してから入居となるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活において利用者の思い出について話しながら共感したり、調理や縫い物などを利用者から教えてもらうなど、支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者のその場その時の希望・意向の把握に努めている。把握が難しい場合等は利用者の行動や表情から汲み取り、利用者本位となるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個人記録や申し送り事項を基に会議で話し合って利用者の状況を把握し、本人本位となるような介護計画を作成している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングやカンファレンスを基に3ヶ月ごとに見直しを行っている。また、利用者の状態変化に応じてそのつど話し合い、現状に即した介護計画となるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院への付き添いや地域住民からの介護相談や医療に関する書類作成の指導など、柔軟な支援を実践している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医による受診支援を行っている。また、協力医療機関への定期受診や健康相談を受けられる体制が築かれている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期への対応については、法人系列の特別養護老人ホームに入所する等対応しており、契約時に本人・家族に説明し同意を得ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りを損ねることのないような言葉掛けや対応を行っている。また、職員は個人情報に関する取り扱いが定められた契約書に署名・捺印をしている。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの想い・希望の把握に努め、希望に応じた支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食器洗いなど、力量に応じて利用者と職員が一緒に行っている。また、職員も同じ食卓に着き、昔話や嗜好品について話しながら楽しく食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や体調に合わせた入浴支援を行っている。入浴を嫌がる利用者には言葉掛けの工夫により入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理・洗濯・植物の世話など、利用者の好みや力に応じた役割ごとや楽しみごとが持てるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天候を考慮しながら散歩・買い物・ドライブなどの外出支援を行っている。外出を嫌がる利用者には日光浴を勧めており、日常的に戸外に出るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵を掛けない暮らしの大切さを理解しており、夜間以外は施錠しておらず利用者の自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、年に2回避難訓練や初期消火等の実践的訓練を実施している。また、夜間を想定した訓練も現在検討中である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人系列事業所の栄養士が献立を作成しており、バランスの摂れた食事内容となっている。1日の栄養摂取量は毎回記載し、職員は個々の状況を把握し配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはセミパブリックスペースが設けられ廊下には居室への誘導用ライトが取り付けられている。また、脱衣室には固定トイレが設置されるなど、利用者が生活しやすいよう配慮されている。また、装飾品や植木鉢を置くことにより生活感や季節感を出すなど、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や仏壇などが置かれたり趣味や思い出の品が飾られており、利用者にとって居心地の良い空間となっている。		

 は、重点項目。